

TDAテキスタイルスクール東京 —プリーツ加工の理論と演習—



■日時 2004年7月25日(日) 10:00~16:30

■会場 株式会社杉本プリーツ

TDAスクール東京では例年夏はワークショップを伴うサマースクールを行っています。以前からご要望が多かったプリーツですが、諸事情の為なかなか公開していただく事が難しく、今回やっと見学が許される運びとなりました。定員20名のところ、キャンセル待ちの出る程の人気で、遠く九州や北陸からも参加されました。

ご無理をお願いし、ご協力下さいました株式会社杉本プリーツさんは1965年創業、従業員40名、1ヶ月に2万~2万5千着の服を作ってらっしゃる会社です。プリーツとはヒダ付けのことで、古くはエジプトのカラシスや、日本では裳や袴などがあり、女学生服として長く用いられてきました。戦後合成繊維の出現と共に洗濯に耐えるパーマネントプリーツが得られる事により急速に発達しました。最近では衣服のみならずコックの帽子やラッピング等にも使用され、幾何学模様のプリーツの創作が多種多様に使用されています。一般に化学繊維の生地はヒダづけが可能です。植物繊維(綿、麻)、動物繊維(気、絹)にもヒダが付きませんが、すぐに消えてしまいます。但し、毛(ウール)はシロセット加工法(薬品使用)によりプリーツ加工可能です。現在、その他の天然繊維について薬品を使用してプリーツ性の研究開発を行っていますが、完全なものはありません。

プリーツ加工方法には大きく分けて2つあり、マシーンプリーツ(機械加工)と、ハンドプリーツ(手動加工)です。マシーンプリーツはプリーツ専用機械を用い原反のままでもヒダづけが可能です。二本の熱ローラーの間にナイフエッジで生地を供給して平行ヒダをつけて巻きとる方法です。又、ハンドプリーツはあらかじめ型をつけた2枚の型紙(カルトン)の間に裁断された生地をはさみ、畳み込んでヒダ付けを行う方法でアコーディオンなどの自由な形が得られる型紙加工法です。そしてプリーツの耐久性を持続させるためには「セット」する必要があります。蒸気温度・湿度・減圧(圧力)・かける時間によって成り立っています。この設定方法はそれぞれの生地(素材)によって異なります。

お話を伺った後、2つのグループに分かれて作業に入りました。皆さん念願が叶って見学、しかも実習出来るとあって美しいプリーツが完成する度にあちこちで歓声があがっていました。出来上がったサンプルを人数分に分け、膨らんだファイルと共にスクールは無事終了しました。

最後になりましたが、ワークショップの開催を快諾下さいました杉本社長、ご説明、ご指導

頂きました鈴木専務、
従業員の皆様、心から厚く御礼申し上げます。(原 玲子)

